

二〇一九年二月二二日

外つ国の客も利き酒蔵ぬくし
ママだけに判る喃語や山笑ふ
対岸の芽柳淡き蔵通り

たか子
宏 虎
智恵子

二〇一九年二月二二日

春光をはじきて尖る波頭
飛び石の角削るごと春の川
温かや樹齢百年杉に触れ
富士の峰をさして消えゆく雁の棹

愛 正
たか子
満 天
もとこ

二〇一九年二月二〇日

蔵寒し樽に籬打つ槌の音
蔵日永樽造り見て試飲して
揚雲雀みるみるうちに空の点
家苞に辛口選ぶ寒造

たか子
菜 々
素 秀
満 天

二〇一九年二月一九日

たんぽぽや茅葺き屋根の助産院
酒樽の籬編む手練れ寒造り
熟成をうながす蔵の春灯し
堰落ちし水に躍るは落椿
板壁のつづく蔵町春しぐれ

さつき
はく子
たか子
さつき
菜 々

二〇一九年二月一八日

林立す摩天楼ビル春霞
引き潮の忘れものらし桜貝
探梅や産み月の娘に歩を合はし

三 刀
智恵子
なつき

二〇一九年二月一七日

雛の家こころ卯建の残る町
樽酒を割れば芳し新走
吹奏楽高らか卒業コンサート
竹林のかかる高きに藪椿

なつき
さつき
菜 々
せいじ

二〇一九年二月一六日

番所跡ここぞとあまた落椿
花菜畑ゆるがせ一両列車過ぐ
願ひ絵馬あひ打ち合ひて東風強し

さつき
素 秀
智恵子

毎日句会みのる選・二〇一九年二月二四日